

ソフトバンク、株価下落で純損失 1.7 兆円 22 年 3 月期

2 年前のコロナ禍

今年になってロシアによるウクライナ侵攻

世界は混沌とした状況にある

世界各地でインフレが始まり、

それを抑えるための金利の上昇など

株式マーケットも影響を受けている

ソフトバンクは何をなすべきか？

一言で言えば、「守り」です。

2 年前のコロナ前、4.5 兆円の資金化プログラムを発した。また、自社株買いも。着実に実行してきた。

今、やるべき行動は 2 つです。

①継続的な資金化 × ②投資基準の厳格化

すなわち

現金を厚く 5.5 兆円、新しい投資に向けての厳格な基準で

これが「結論」です

詳細は、

混沌とする世界

新型コロナ      ロシアによるウクライナ侵攻

累計感染者数 5 億 世界的な流行→パンデミックを引き起こした

原油価格 38%増 天然ガスは倍 小麦価格は 44%増 消費者物価指数も米国では大きく  
増え

それを抑えるため、長期金利も 2.9%まで上がっている

為替レートも何十年かぶりに 130 円の状況

ナスダックの株価も 27%下落

さて、ソフトバンクへの懸念は

- ①保有株の下落
- ②借入が多すぎないか
- ③資金繰りは結果、大丈夫か

事実について、3点の結論的事実

- ①時価純資産で18.5兆円を保持している  
NAV ネット アセット バリュース
- ②LTV ローン to バリュース 20.4%
- ③現預金 2.9兆円を保持している

この3点の事実をもう少し詳しく述べると、  
当期純利益 今日発表で-1.7兆円  
一昨年が-1兆円  
昨年が+5兆円  
の通期利益でした。

LTV と NAV の2つの指標から評価

NAV のビジョン・ファンドは、累計利益が6兆円→3兆円に減った。  
だが、まだ3兆円の累計利益がある

その地域別内訳は、

中国がマイナスで、新規の投資のリスクを検討中

米国、アジア、ヨーロッパも減った

世界的に特にロシアの株式下落等の影響がある

ソフトバンク、株価下落で純損失 1.7兆円 22年3月期

2年前のコロナ禍

今年になってロシアによるウクライナ侵攻

世界は混沌とした状況にある

世界各地でインフレが始まり、

それを抑えるための金利の上昇など

株式マーケットも影響を受けている

ソフトバンクは何をなすべきか？

一言で言えば、「守り」です。

2年前のコロナ前、4.5兆円の資金化プログラムを発した。また、自社株買いも。着実に実行してきた。

今、やるべき行動は2つです。

①継続的な資金化 × ②投資基準の厳格化

すなわち

現金を厚く5.5兆円、新しい投資に向けての厳格な基準で

これが「結論」です

詳細は、

混沌とする世界

新型コロナ      ロシアによるウクライナ侵攻

累計感染者数 5億 世界的な流行→パンデミックを引き起こした

原油価格 38%増 天然ガスは倍 小麦価格は44%増 消費者物価指数も米国では大きく増え

それを抑えるため、長期金利も2.9%まで上がっている

為替レートも何十年かぶりに130円の状況

ナスダックの株価も27%下落

さて、ソフトバンクへの懸念は

①保有株の下落

②借入が多すぎないか

③資金繰りは結果、大丈夫か

事実について、3点の結論的事実

①時価純資産で18.5兆円を保持している

NAV ネット アセット バリュース

②LTV ローン to バリュース 20.4%

③現預金 2.9兆円を保持している

この3点の事実をもう少し詳しく述べると、

当期純利益 今日発表で-1.7兆円

一昨年が-1兆円  
昨年が+5兆円  
の通期利益でした。

LTV と NAV の2つの指標から評価  
NAV のビジョン・ファンドは、累計利益が6兆円→3兆円に減った。  
だが、まだ3兆円の累計利益がある

その地域別内訳は、  
中国がマイナスで、新規の投資のリスクを検討中  
米国、アジア、ヨーロッパも減った  
世界的に特にロシアの株式下落等の影響がある

会計上の利益よりこの2つ指標が重要である。  
NAV=18.5兆円(ネット・アセット・バリュー、保有株式-有利子資産=時価の純資産)減少したが、  
まだ十分な資産を持っている  
3月末で9.2兆円 約50%のディスカウントがされている

NAV の推移を見ると、  
資産 - 借入 = 純資産  
内訳 22%、AliBABA  
3%、上場投資  
12% arm  
4% T モバイル  
10% SBKK  
49% Vision Fund

Vision Fund 60→49 (ALIBABA のチャイナリスクを外してみると、そんなに落ちていない)  
一社のアセットに依存することなく  
ポートフォリオはうまく行っている。

LTV の推移を見てみると  
LTV=20.4% 純負債/保有株式(現在価値)  
25%を下回る比率を社の内規としている  
35%は、異常時にあたるレッドゾーンとしている

前回決算発表では

22%→20% に改善したと思う

手元流動性 現金を

社債の2年間の負債分を、現金資産で保持しようとしている

1.3兆円に対し2.9兆円で

十分に安全運転していると思う

自社株買い

ソフトバンクの株式がディスカウントしているので自社株買いのチャンスでもある

11月までに1兆円 43%へ→そして買い戻した株は償却にまわす。

今後、どういう手法で改善していくか

新たな投資 5.2兆円

資産売却 5.6兆円

回収した資金で投資を行う → エコシステムという循環システムで

負債のバランスを悪化させるのではなく、

投資によるものとする

上場株を売却→未上場株への投資をする

2から3年後には回復するだろう

また、守りを固めるため自社株買いをする 現金を厚く持つ

保守的に進める

雨が降ったら傘をさす

ビジョン・ファンドは475社へ拡大

しかし、

投資の一件ごとのチケットは減ってきている

株式公開上場へ

保守的に投資していく

パートナーへの配当、還元 分配(5.3兆円→資金化)

トータルで15兆円を確保したい

攻め中期戦略について

持ち駒の中で投資していく

arm(株式保有、ソフト75%、ビジョンファンド25%)は5年間継続して成長している

ライセンスによるCPUの出荷は290億個へ まだまだ伸びる→情報革命を牽引

研究開発へ投資 Ver8→Ver9 へ

単価が上回り、ロイヤリティをとっている 利益も拡大中、予想ができる  
高いマーケットシェアがある

モバイル、IOT、自動車、クラウド

95% 63% 24% 5%

キー産業が成長のカギになる

第二の成長期へ シングルコア→マルチコアへ

現在 144 コア 省電源 演算処理力

→スーパー化へ

ビジョン・ファンド→ arm への集中投資

で、SBC からの追加資金は不要

FCF の業績を確保している

今後上場への準備へ

課題の arm チャイナのガバナンスを正常化 → 2 ヘッドの登記した→経営の正常化

監査公表ができるようになった

中長期戦略について

情報革命への期待投資へ

インターネット革命 1 から 10 年でインデックス 30 倍になった

利益の出ない会社がなぜか、株式価値ばかりで異常だ

まさに、バブルと言われたが、

30→10 へ だが 1→10 へ

10→100 から リーマンショックで 100→50 へ

そして、50→2400 へ

今回、2400→800 へ

3 回も変化した

買うか売るか迷うが

arm は

情報革命は今後も進化する

二次曲線で変化している

その価値は

金利変動 為替変動、雇用の変化の影響は受けるが

本質的なテクノロジーは進化する

→その進化を信じて

情報革命の進化を信じ

NAV(時価純資産)18.5 兆円

LTV(純負債/保有株式)20.4%

現金等 2.9 兆円

Softbank Vision Fund × Arm で

情報革命推進を通じ、人々を幸せにしていく

iPhone12proMax から河野清一が送信